

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4676300140
法人名	有限会社 澤津ケアサービス
事業所名	グループホーム ぬくもりの里
訪問調査日	平成20年8月7日
評価確定日	平成20年9月8日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4676300140
法人名	有限会社 澤津ケアサービス
事業所名	グループホーム ぬくもりの里
所在地	曾於市 大隅町 中之内 6078-9 (電話) 099-471-2802
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成20年8月7日

【情報提供票より】(平成20年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月6日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 12人, 非常勤 7人, 常勤換算	16.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900円

(4) 利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	7 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.5 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	昭南病院 井上歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな田園風景の中、高齢者コミュニティーセンターをはじめ、小学校や保育園に近接して建てられており、地域の方々や子供たちとの交流が盛んなホームである。看護師でもあるホーム長は、病状悪化の際も本人・ご家族の希望に応じて、できる限りホームで対応できるように医療機関との連携に努めている。入居者は環境変化によって生じる精神的負担を感じることなく、安心して暮らし続けることができる。適切な医療管理が受けられる体制は、ご家族にとっても大きな安心材料となっている。重度化が進み外出も徐々に難しくなっているが、近所への散歩や誕生会等の行事、お菓子作りなどを企画して、入居者がいつまでも住み慣れた地域で楽しく生活できるように取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	●理念の共有と日々の取り組みについては、理念実現のために具体的な目標を設定するなどの改善がなされている。●運営推進会議を活かした取り組みについては、定期的開催され、様々な立場の方が参加して効率的な運営が行われている。その他の項目に関しても、管理者を中心に職員全員で改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、職員が評価の意義を理解した上でユニットごとに取り組み管理者がまとめている。前回の改善項目についてはミーティングで報告し、話し合いを重ねて改善を図っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回定期的に開催しており、行政、地域住民、知見者等、様々な立場の方が参加して意見交換を活発に行っている。出された意見は、ホームの運営や評価で明らかになった課題の改善などに活かされており、有意義な会議となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご家族の来訪時や毎年1回開かれる家族会の際に声をかけ、意見を聞くようにしている。また、日頃からご家族と信頼関係を築き、意見を言いやすい雰囲気づくりに心がけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の小学校で行われる持久走大会の応援や、学習発表会の見学に向いている。ホームで行われる七夕や誕生会などの行事の際には、地域住民やボランティア、児童がホームを訪れて交流を図っている。また、中学校のボランティア協力機関にもなっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「開かれたホームとして地域との交流を図ります」という、事業所独自の地域密着型サービスとしての理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を達成するために具体的な目標を設定し、月1回のミーティングの際、職員から達成度を聞き取り確認している。6ヶ月毎に達成度をまとめ、今後の理念の実践に役立てていく予定である。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学校で行われる持久走大会の応援や、学習発表会の見学に向いている。ホームで行われる七夕や誕生会などの行事の際には、地域住民やボランティア、児童がホームを訪れて交流を図っている。また、中学校のボランティア協力機関にもなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、職員が評価の意義を理解した上でユニットごとに取り組み管理者がまとめている。前回の改善項目についてはミーティングで報告し、話し合いを重ねて改善を図っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催しており、行政、地域住民、知見者等、様々な立場の方が参加して意見交換を活発に行っている。出された意見は、ホームの運営や評価で明らかになった課題の改善などに活かされており、有意義な会議となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの要請により厚生局の実地指導を受けており、ともにサービスの質の向上に取り組む機運が高まっている。日頃からホームの運営上の疑問や相談事などについて、担当者と気軽に連絡を取り、問題解決できる関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の日々の暮らしぶりについては、ご家族の来訪時や毎月送付している新聞で報告している。状態変化や通院後の報告は、ご家族の状況に応じて電話やメールで行っている。金銭管理についても、ご家族の来訪時に確認していただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時や毎年1回開かれる家族会の際に声をかけ、意見を聞くようにしている。また、日頃からご家族と信頼関係を築き、意見を言いやすい雰囲気づくりに心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の精神的負担が大きくなるように専用の休憩室を確保するなど、負担軽減に努めている。離職のため、入居者が不安になることが無いように、退職後もボランティアでホームを訪れる機会をつくるなど、職員とともに協力しながら取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、ホーム内での研修を行っている。また、介護に関する理解度テストを行い、それぞれの知識や習熟度を把握しながら職員の育成に取り組んでいる。外部研修は、偏りがないように職員の経験や知識に応じて参加させ、後日ミーティングで研修報告を行い、他の職員にも還元している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の認知症の勉強会「夜明け会」に参加し、同業者との情報交換を行っている。また、同業者の職員同士で定期的にスポーツで交流する機会を作り、親睦を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を希望する本人やご家族に見学していただき、納得した上で入居を決めていただくようにしている。やむを得ず本人が入院中などでご家族のみの見学の場合は、管理者が本人との面談後、サービスを開始するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、唐芋飴作りやチマキ作りをはじめ戦争の体験話などを入居者から聞くことで、多くの事を学んでおり、日々入居者と支えあいながら生活を送っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での些細な会話やしぐさの中から、その人の思いに気付き対応できるように心がけてケアを行っている。意思疎通が難しい入居者に関しては、ご家族とのコミュニケーションを大事にして本人本位のケアができるように配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成に際しては担当者会議を開催し、様々な立場からの意見を聞くようにしている。また、日々のケアの中で職員に意見を聞き、介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状況に応じて見直しの期間を設定して、介護計画を作成している。月1回モニタリングを行い、状態の変化があった場合は期間内であっても介護計画を変更し、現状に即した内容になるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員に看護師を配置しており、医療機関と連携を図りながら、入居者が住み慣れたホームで暮らし続けることができるように、入院の回避に努めている。また、訪問診療や通院の付き添いを行うことで、入居者が安心して生活できるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者やご家族が希望するかかりつけ医への受診や訪問診療に加え、他科受診も含めて適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについての指針を定めている。延命治療に対するご家族の意思を確認して、職員全体で共有している。また、状態変化の都度、話し合いを重ね、変化するご家族の意向の把握に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は職員の採用時に、プライバシーの重要性を理解してもらうべく勉強会を行っている。また、日常生活での言葉かけや記録の取り扱いについてリーダーが点検するなど、プライバシーの確保に向けて日々取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に言葉かけをして、入居者の思いを確認しながら、希望に沿えるように外出や入浴の支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の重度化が進んでいるものの、座ったままで行える作業や、可能な範囲で食事の準備に参加している。また、行事に合わせたお菓子作りなどを企画して、入居者が楽しんで参加できるように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴支援を行っているが、本人の希望により、1～2日おきに入浴されている方が多い。入浴した日は個人別に記録に残し、入浴日が偏ることがないように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝の新聞取りや鳥の世話、農作業など、一人ひとりがホームの一員として役割を持ち、日々の生活を送っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子利用の方が多くなり、外出の支援が難しくなっているが、戸外に出て風を感じてもらったり、近所を散歩するなど、なるべく外出の機会が多く持てるように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、自由に出入りができるようにしている。入居者が外出されそうな場合には無理に止めることなく、安全面に配慮しながら一緒に付き添うなどして対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	原則として毎月、参加可能な入居者と共に避難時の誘導方法を確認している他、年2回、消防署指導の下での避難訓練を行っている。また、運営推進会議等を通じて、地域住民の協力を働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年に1回程度管理栄養士の指導を受ける他、血液検査の結果を利用して栄養バランスを確認している。食事、水分の摂取量は毎日個人別に記録しており、職員全体で把握できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースにソファを置き、ゆっくり過ごせるような空間作りがなされている。また、畳の間もあり、ホーム全体が落ち着いた雰囲気になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使い慣れた家具や自宅にあった置物を持ち込み、その人らしく、住み慣れた自宅の雰囲気が感じられる居室になっている。		